

みくりや

第5号

国立駿河療養所広報誌



あづまや
四阿より千本桜と富士山を望む

国立駿河療養所の理念

私たちは入所者の皆さまが安心して療養生活のできる環境の提供につとめます。

国立駿河療養所の基本方針

- 入所者の皆さまの人格を尊重します
- 安全で快適な生活ができるようつとめます
- 安心して受けることのできる医療を提供するようつとめます
- ハンセン病の正しい知識をひろめ地域との交流をめざします

目次

新任職員あいさつ	2
合同桜まつり	4
平成28年度の主な行事	5
外来診療および入院診療のご案内	6
入院のご案内	7
こちら駿河探検隊	8



新任者自己紹介

福祉室長 鈴木 正美

4回目の駿河療養所です。今までは庶務や会計の仕事でしたが、初めて福祉の仕事を行います。採用から28年、納骨堂に骨を埋める覚悟で頑張ります。

駿河に行きたいと言ったとき母親は反対しました。子供の頃神社の縁の下にハンセン病の方がいて怖かったそうです。「そんなところには神様のような人しか勤められない、お前なんか無理だ。」と言いました。来てみたらおっかない介護員のおばさん達が大勢いて、この人達は神様では無いなと思いました。

採用時は会計の仕事をしていました。ある日療養所の写真のフィルムを近所の写真屋に持って行きました。そこへ入所者の方もフィルムを出しに来て、カウンターの上に2つのフィルムが並びました。店のおばさんは入所者のフィルムだけカウンターから奥の棚に移しました。僕は入所者の顔を見ました。おそらくいつものことなのでしょう、怒った様子はありませんでした。

上司からは昔話をよく聞かされました。近隣には療養所と取引してくれるお店が無く、沼津まで買い出しに行っていたそうです。帰りはトラックの荷台に乗って帰って来たということでした。以前からの業者は大切にしろということで、価格競争する状況ではありませんでした。

その当時、組合の集会に参加したことがあり、他の病院の職員から「駿河にいる限り一生結婚はできないよ。」と言われたことがあります。当時はそんな時代でしたが、平成17年に転勤した先の病院の事務職員には、「子供が結婚するまでは、駿河には行きたくない。」と言われました。こんな人がまだいるのかと思いました。1度植えつけられたイメージは消すのが簡単ではないのだなと思います。

昔話をすると最近の人からは時代が違われそうですが、私にとってはつい最近のことのように思われます。2度目、3度目に赴任した時よりも、採用された時の方が印象に残っています。今度の任期ではどんなことを感じるでしょうか。皆さんから役に立ったと言って貰えるように出来れば良いなと思います。



診療放射線技師長 安藤 和徳

はじめまして。本年4月1日付で診療放射線技師長として愛知県の国立長寿医療研究センターから赴任してまいりました安藤と申します。

出身は愛知県名古屋市で現在は名古屋市より少し北へ行ったところにあります小牧市に自宅を構えております。家族は妻と高校3年生の長男、中学3年生の長女、小学6年生の次女の5人家族です。趣味と言うほどの事でもありませんが、家族で旅行やスキー、キャンプなどに出かけることが好きです。しかし、子供たちが大きくなるにつれ、部活動などなんだかんだあってだんだん休みが合わなくなり、めっきり出かけることも減ってしまいました。

こちらへは単身で赴任し、また放射線科には技師が一人ということもあって赴任当初は毎日が不安と緊張でいっぱいでした。しかし、豊かな緑と鳥の囀り、そして目の前に広がる雄大な富士山の眺めに癒され、何よりも入所者の皆さんや職員の皆さんに温かく迎え入れていただいていると実感することで、



少しずつではありますが、療養所のことや放射線科のことを学びながら2カ月が経ちました。これからも安全安心でかつ質の高い医療を提供できるよう努め、少しでも国立駿河療養所に貢献できればと考えております。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

病棟 柴田 千歳

2016年4月より駿河療養所でお世話になっております。こちらの療養所を訪れたのは、30年以上前学生の時の見学実習以来です。いろいろな建物も新しくなっており、昔を思い出すには時間が経ちすぎております。その間に、「らい予防法」の廃止や「ハンセン病基本法」の制定など療養所内では目まぐるしい日々が送られてきたと思います。日本全体が高齢化社会となってきたように、療養所にも高齢化の波は訪れてきています。これから、ほんの一時ではありますが、図々しくも皆様の人生の一部を共有させていただきます。それぞれの人生設計に寄り添っていけるようコミュニケーションを大切にしながら、やっていきたいと思っております。



また、自然豊かであり、春の桜、初夏の新緑に囲まれて、今後どの様な自然に囲まれていくのか楽しみです。

第2センター 綾部 弘美

4月に駿河療養所の第2センターに配属され2ヶ月が過ぎようとしています。勤め始めは緊張で毎日ドキドキしながら坂道を運転し出勤していましたが、新しい環境でのスタートに不安な気持ちでいっぱいでしたが、諸先輩方にご指導いただきなんとか今日までやってることが出来ました。入所者の方々からも色々と教えていただく事が多くありました。ある日、入所者の方から「坂の土手の花は咲いている？」と聞かれ、土手？花？ただひたすら運転する事だけに集中し周りを見渡す余裕がないことに気が付きました。それからは出来るだけ入所者の方々と話が出来るよう周囲を見渡すよう心掛けるようになりました。



まだまだ、ハンセン病についての知識や療養所のシステムや業務、処置など十分に理解できていない事もあり、勉強不足な点多々あると反省しております。これからも諸先輩方にご指導いただきながら自分なりに理解を深めていきたいと思っております。

合同桜祭りや茶話会などの行事にも参加させていただきました。行事に参加されている入所者の方々の笑顔を見ながら、入所者の皆さんが今後も楽しい生活が送れるように微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っておりました。

今後も入所者の皆さんが安心して療養生活が送ることが出来るよう、一生懸命がんばっていきたく思いますので、これからもよろしく願いいたします。

平成28年度行事

合同 桜まつり



合同桜まつりが平成28年4月26日に開催されました。

合同桜まつりとは高齢者会、盲人会、自治会が合同で花見気分を味わう行事です。

会長、施設幹部の挨拶や乾杯のあと、食事をしながら余興の鑑賞やビンゴゲームが行われました。

余興は歌謡曲の生バンド演奏（職員）と太鼓お囃子（職員）でした。

春菊やエビなど、揚げたてあつあつの天ぷらを味わいながら、春の午後のひとときを過ごしました。



▲病棟ロマンチカ&ニセ田畑よしお（職員）



▲チンドン屋（職員）

平成28年度の主な行事

7月28日(木)

納涼カラオケ祭(講堂)



入所者・職員・職員家族・地域有志、地域カラオケ会等々の友情参加約30組により熱唱されます。



8月4日(木)

納涼盆踊り大会(事務本館前広場)

盆踊り、阿波踊り、太鼓演奏、模擬店各種、花火3000発。
地域から多くの方々を迎え賑わいます。
雨天の場合は翌日に延期です。



9月15日(木)

敬老祝賀会(富士見会館)



62名の入所者の平均年齢は84歳、最高齢105歳です。来賓として御殿場市関係者をお迎えし記念品や祝辞を頂いております。余興は地域の日本舞踊団体や職員のバンド・太鼓等にて目出度い時間を過ごします。

10月20日(木)

駿河神社祭(神社境内と療養地帯全域)



伊勢神宮の式年遷宮により下賜された神社です。完全なる神宮摂社が原型のまま建てられたものは全国に類のない事です。毎年、多くの関係者に支えられて厳粛な雰囲気の中、盛大に例祭が举行されます。午後は職員により御神輿・お囃子が所内を練り歩きます。

11月8日(火)

合同慰霊祭(講堂と納骨堂)

毎年、この一年に亡くなった物故者と435柱の御霊に対し慰霊します。今年で第69回目です。

11月22日(火)

瀧川鯉昇寄席(講堂)

毎年、瀧川鯉昇師匠に來所いただき楽しい一時を提供して頂いております。今年の寄席も楽しみです。また、今年は津軽三味線の演奏者も來所してくれるそうです。

12月6日(火)

誕生祝賀会



この一年また元気に年を重ねる事が出来たお祝いです。職員がお餅をついて、入所者の皆さんに食べて頂き、楽しい時間を過ごします。

外来診療

および

入院診療のご案内



国立駿河療養所では一般的な外来および入院の保険診療を行っています。
診療に際しましては各種保険証をご持参ください。

診療科目と診療時間は以下の通りです。

予約が必要ですので事前に電話（0550-87-1711）にてご予約下さい。

外来診療

- 内科・呼吸器内科：毎週水・金曜日
午前 11 時～ 12 時

担当：所長 福島一雄
日本呼吸器学会指導医・専門医

- 整形外科：毎週金曜日 午前 11 時～ 12 時

担当：外科医長 江川明祥
日本整形外科学会・専門医

入院診療

- 医療機関からの紹介並びに外来診療で入院が必要と診断された方が入院の対象になります。
- 入院が決まりましたら、『入院の手引き』をご参照ください。
ご不明な点は係にご気軽にお尋ねください。

担当医：上記 2 名

入院のご案内



入院にあたって

皆様に、安心して入院生活を送って頂けますように、入院生活についてのご案内をいたします。入院当日は決められた時間（午前10時30分）までに、入院窓口（福祉室）で手続きが出来るようにご来院下さい。

入院手続きに必要なもの

1. 入院申込書（兼誓約書）／身元引受・債務保証書
2. 保険証／限度額認定証（毎月確認させていただきます）
3. 診察券（IDカード）
4. 印鑑（患者様本人・申込者・連帯保証人）
5. 退院証明書（過去3ヵ月以内に入院されていた方のみ）
6. 各種医療券（交付を受けている方のみ）

（注1）保険証等の提出がない場合は、提出されるまで全額実費扱いになります。

（注2）保険証の記号・番号に変更があった場合、保険等の資格が無くなった場合、住所・連絡先等が変更になった場合は、入院窓口までご連絡をお願いします。

入院の際に準備して頂くもの

1. 洗面用具（洗面器・歯ブラシ・石けん・シャンプー・ヘアブラシ・ひげそり等）
2. 食食用具（湯のみ・コップ・はし・スプーン等）
3. 日用品（寝間着・普段着・下着類・タオル・上履き（滑りにくい安全なもの）・ティッシュ、必要時オムツ等）
※病衣の貸し出しは行っておりません。
4. お薬手帳（お持ちの場合）、現在使用している薬

チェックリスト

入院手続きに必要なもの

- 入院申込書（兼誓約書）／身元引受・債務保証書
- 保険証／限度額認定証
- 診察券（IDカード）
- 印鑑（患者様本人・申込者・連帯保証人）
- 退院証明書（過去3ヵ月以内に入院されていた方のみ）
- 各種医療券（交付を受けている方のみ）

入院の際に準備して頂くもの

- 洗面用具（洗面器・歯ブラシ・石けん・シャンプー・ヘアブラシ・ひげそり等）
- 食食用具（湯のみ・コップ・はし・スプーン等）
- 日用品（寝間着・普段着・下着類・タオル・上履き（滑りにくい安全なもの）・ティッシュ・必要時オムツ等）
- お薬手帳（お持ちの場合）・現在使用している薬

*持ち物にはすべてお名前をご記入ください。



こちら駿河探検隊



周りを緑に囲まれたここ国立駿河療養所は富士のすそ野から箱根の間にある山の中腹にあります。そのためここに行くにも長い距離を移動しなければなりません。

昔は歩くのが当たり前だった、と入所者さんたちは話します。

「どこへ行くにも歩いて行ったから山の中を近道して歩いたんだよ。」「山を越えて向こうの芦ノ湖に遊びに行ったりしたな。」

山を歩いて越えた!? 私の驚いた顔がよほど面白かったのか「昔はみんな丈夫だったからな。朝にここを出て昼前には向こうに着いて、夕ごはん前には帰って来れたんだ。」

そうは言いますが地図で見ても結構な距離です。「近道があるんだよ、教えてあげるから行ってごらん。」教わった場所へ出かけてみると道から外れたところに草が生い茂ってはいませんが近道らしい跡が! ちょっとした冒険心が湧き、草をかき分け進んでみました。

最初のうちは意気揚々と登っていたのですが途中で辿ってきたはずの近道の跡を見失ってしまいました。

ピクニック気分でしたが急に怖くなって夢中で山を下り、やっと見覚えのある療養所の道に出たと思うとそこには近道を教えてくれた入所者さんが…「ホントに行くとは思わなかったよ!」

お互いの顔を見て胸をなでおろしました。入所者さんたちの『近道』はまだまだあるそうなので探検のしがいがありそうです。

探検隊隊長タッキー



▲山の中腹にある駿河療養所



▲山の向こうへと続くかつての『近道』

みくりや・みくり(御厨)とは、「御」(神の)+「厨」(台所)の意で、神饌を調進する場所のことである。

本来は屋舎を意味するが、神饌を調進するための領地も意味する。

中世日本においては、皇室や伊勢神宮など、有力な神社が荘園(神領)を持ち、後に地名及び名字として残った。

当国立駿河療養所のある御殿場市、及び隣接する小山町と裾野市の一部を御厨(みくりや)と呼ぶようになったのは、平安時代後期(1100年頃)、伊勢神宮の荘園「大沼鮎沢御厨」があったためである。



職員募集 (看護師・介護員)

入所者の皆さんに関わることで、ケアの原点を見つめ直すことができます。ぜひ、一緒に働きましょう。

お問い合わせは、総看護師長室までお願いします。

発行責任者：福島 一雄

発行所：国立駿河療養所

住所：〒412-8512 静岡県御殿場市神山1915

TEL：0550-87-1711

FAX：0550-87-1921

発行日：平成28年6月

ホームページアドレス：<http://www.nhds.go.jp/~suruga2/>

